

#### 4 外部評価

令和3年度（令和2年度対象）教育委員会事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価にあたって、客観性を確保するため、点検評価の方法や結果などについて学識経験を有する者の意見を聴きました。

##### (1) 学識経験者

(敬称略)

氏名	所属等
吉川 修一	伊達市校長会会長（伊達市立伊達小学校長）
滝澤 敏哉	伊達市PTA連合会会長（伊達市立大滝徳舜誓学校PTA会長）
小林 浩路	伊達市社会教育委員会議議長

##### (2) 主な意見

令和3年度（令和2年度対象）教育委員会点検・評価報告に関する意見

吉川 修一

#### 1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議については、定例会において今日的な教育課題の対応等、様々な教育に関する案件について、各委員の高い関心と問題意識のもと検討・協議されている。

市内学校の行事や伊達市教育実践研修会視察については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施されなかったが、本市における学校教育の現状を把握するうえで大変有意義と考えるので、ある程度感染症が収束となった段階においては再開し、従来通り継続することを期待する。また、市内各学校においては、オンラインの取組が進んでいることから、オンラインによる学校行事や研修会の視察についても検討願いたい。

#### 2 「第2次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

##### (1) 学校教育

##### ① 社会を生き抜く力を育む教育の推進

伊達市学力テストの実施は、確かな学力の定着状況の把握、授業改善の方向性をみるうえで大変有効である。特に昨年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休校や分散登校、通常の指導に制限がかかる授業等が実施されたこともあり、また、現在も政府や道からの宣言等による指示により、教育活動に制限が加わることもあることから、コロナ禍の影響、その影響に対する手立てを見定めていくためには、今後も必要である。

各学校では、学力・学習プランを作成し取り組んでいるが、今後、新型コロナウイルスの影響や対応について、今まで以上に家庭との連携し、学習時間の確保や生活習慣の改善等について、市全体としてのより充実した取組に期待したい。

特別支援教育については、特別支援教育コーディネータや伊達市専門家チームを活用し、乳幼児から中学校卒業まで一貫した教育が進められている。今後とも関係機関との更なる連携を期待する。各校に特別支援教育支援員 15 名、介護員 18 名が配置され、配慮を要する児童生徒に手厚い支援がなされている。今後は、通常学級にしながら支援を必要とする児童生徒が増えてくると予想されるので、適切な特別支援教育支援員、介護員の配置を期待する。また、市内各校においては、特別支援学級在籍相当の判定が出ているにもかかわらず、保護者の理解が得られないため、通常学級に在籍し、苦勞している児童生徒も見られることから、義務教育卒業の進路等を見通した、実態に即した在籍になるよう、保護者との協議を継続してほしい。

国際理解教育の推進については、大滝徳舜暫学校以外の児童生徒を対象とした、市内小学生と中学生を対象としたイングリッシュキャンプを計画していたが、新型コロナウイルスの影響で中止になったのは残念である。計画については継続していただき、新型コロナ感染症の収束が見えた時点では、感染症対策を十分に行い、実施していただきたい。また、市内小学校にテストケースではあるが、外国語活動及び外国語の教科担任が配置されたことは、教育効果が今後見込めるように思われる。市内全小学校に配置されることを希望したい。

情報教育の充実について、小学校においては、新型コロナウイルスの影響を受け、プログラミングについては、前期は十分な取組ができない状況にあった。中学校においては、臨時休校中や分散登校中、オンライン学習ができる状況にあったことから、数値的には大きな差が出ていると考えられる。しかしながら、後期から ICT 環境整備が急速に進み、小学校も中学校同様の取組が可能となり、市内の小中学校において、現在のオンライン授業等の取組については、管内はもとより全道的にも先進地域となってきていることから、次年度以降は高い評価になると思われる。

キャリア教育については、他の活動と同様、新型コロナの影響を受け、特に中学校であれば事業所を訪問することができない状況であったこと、小中学校においても、講師を自校に招聘できない状況にあったことから、従来に比べると評価が低くなったと思われる。今年度については、オンラインによる講師招聘やワーキンググループの取組等改善が図られ、活動が行われている。

環境教育および安全・防災教育の充実について、小中すべての学校で教育活動全体を通して取り組んでおり、新型コロナの状況が許すような状況になれば、コミュニティ・スクール等を活用して推進してもらいたい。

## ②豊かな心を育む教育の推進

道徳教育の充実については、課題解決型や子供同士の対話を重視した授業構成が

規制され、ここ数年各校で全体計画の見直しを行い、特別の教科「道徳」として研修が進められてきた部分が活かされない状況であった。しかし、今年度に入り、道徳推進教師等を中心としながら、Chromebook 等を活用した授業等も実施されるようになり、今後の展開に期待したい。

生徒指導・教育相談の充実については、いじめの早期発見・解決に向けた校内研修をすべての学校で開催し、校内体制の充実を図っている。「いじめ」「不登校」の件数はゼロにはなっていないが、件数については前年度を下回っている。特にいじめについては、「どんな所でも起きる」を念頭におき、「いじめは絶対にゆるされない」ということを児童生徒に浸透させ、伊達市いじめ基本方針に則った、市全体としての取組に期待する。

### ③健やかな体を育む教育の推進

体力運動能力の向上については、ここ数年の伊達市内児童生徒の課題となっていることから、昨年度は「体力テスト」は実施されなかったものの、市内各校「体力向上プラン」を作成し、体力・運動能力向上に向けた指導が、継続的に実施されている。すぐに成果として数値に現れないかもしれないが、市内全小中学校の共通課題としての取組として、実践を継続願いたい。

食育・健康教育の推進については、一昨年度より地場産食材の積極的な活用が図られ、給食メニューについても工夫が図られるようになってきている。また、栄養教諭の派遣についても計画的に、全市内小中学校に派遣されるようになり、その成果が残食量の減少にもつながってきている。また、養護教諭や栄養教諭による保健指導、食育指導がすべての学校で進められていることから、朝食を毎日食べる児童生徒の割合も高くなってきている。

「がん教育」等の健康教育に対する取組については、新型コロナの影響で外部講師が招聘できない中、ほとんどの学校が教育課程に位置付けられていることから、工夫を図り実施されており、今後も継続を期待したい。

### ④地域と共にある学校づくりの推進

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、会議が開催することが不可能な状態、講師を招聘したり、校外での活動が規制されたりしていた状態が続いたため、「地域総がかりの教育の推進」「ふるさと創生教育の推進」「異校種間連携・接続の推進」「幼児教育の充実」「教職員の資質・能力向上」等については十分に実施できない状況にあった。しかし、各校では、活動を工夫し、細目に地域や保護者の意見を学校運営協議会の委員の方々に情報提供を行うとともに、「だて学」においても、各校で工夫を図り、学校ごとに活動が行われた。

異校種間の交流においても、可能な範囲での活動が行われていた。残念ながら、幼稚園との連携や教職員向けの研修会は結果的に実施できなかったようだが、今後

もコロナ禍の中、工夫された活動により、活動の継続を、未実施であった部分については、工夫した対応により、実施を試みてほしい。

#### ⑤信頼される教育環境の整備

学校施設・設備の充実については、各学校で施設、設備の老朽化が進んでいるが、東小の長寿命化、光陵中の暖房施設改修等が行われ、伊達小については校舎改修事業が議会で説明された。また、市内5大小中学校においては、保健室にエアコンが整備された。今年度においては、伊達中の暖房施設改修工事が行われ、計画的に教育環境の整備は行われている。

校外安全対策の充実については、コロナ禍の中、対応の重要性を各学校で理解しており、取組状況が前年度より高い評価となっていることから、次年度については100%達成を期待したい。

学校再編等の推進については、今年度稀府小学校、次年度有珠小学校、3年後長和小学校と地域と協議会を開催しながら、計画的に進められている。地域との対話を重視しながら対応を願いたい。

高等学校教育等との連携・支援については、新設校である「伊達開来高校」に対し、ハード面の支援は行われていた。今年度開校し、ソフト面の支援が実施されており、成果として出てくるのは、2～3年後と思われる。支援の結果を期待したい。

### (2) 社会教育

#### ①ふるさと意識を育て地域づくりに参加する青少年教育の推進

様々な事業や活動が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったり、十分活動ができなかったりした状況であったため、参加割合、参加人数が激減している。今後しばらくの間は、状況が大きく改善される状況にあるとは考えにくいことから、事業の開催方法や活動の在り方について工夫を図り、活動を継続してほしい。

#### ②共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進

「生涯にわたる充実した学習機会の提供」「高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の提供」「家庭・地域の教育力の向上」「図書館機能の充実」のどの施策項目においても、新型コロナウイルス感染症による影響によって、取組内容や事業が中止になったため、参加者数や利用者数、参加割合、利用者割合が大きく減少している。前述したように、今後しばらくの間は、状況が大きく改善される状況にあるとは考えにくい。しかし、生涯にわたる充実した学習機会の提供については、重要であることから、事業の開催方法や活動の在り方について工夫を図り、活動を継続してほしい。

### (3) 歴史・文化芸術

#### ①特色ある地域文化の推進

毎年、児童・生徒に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供するため、巡回小劇場を開催していたが、新型コロナウイルスの影響を受け、中止となった。また、市やメセナ協会などによる定期的な舞台・音楽公演も中止となってしまった。市内では、芸術文化を鑑賞することが定着してきている。芸術鑑賞に触れる機会が少ない伊達の子供たちにとっても貴重な機会であるので、感染対策を万全に行つての開催、可能な範囲でのオンラインでの開催等、開催方法を工夫し、継続して実施してほしい。

## ②歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

「だて歴史文化ミュージアム」の入館者数については、新型コロナの影響を受け、他の社会教育事業同様、大幅な減少となっているが、展示替えや施設での連動企画の展開により、アンケート満足度が10%以上向上している。市の貴重な文化財の保存・活用について今後も続けてほしい。

広域的な文化資源の活用の推進において、今年度、北黄金貝塚が、縄文遺跡群の世界遺産登録となった。市民への世界遺産としての希少価値の情報発信や観光資源としての価値を更に高める活動を進め、市の大きな財産としてまちづくりを進めてほしい。

## (4) スポーツ振興

### ①豊かな心身を育むスポーツの振興

スポーツ活動の推進についても、他の社会教育事業同様、新型コロナの影響を受け、中止になったスポーツ大会や指導者研修会や講習会が多かった。年度後半、感染対策を十分に行いながら行った事業もあったが、例年に比べると参加者数は減少している。

「春一番伊達ハーフマラソン」「スキーマラソン大会」等、市外にも広く知られ、開催を期待している人も多いことから、スポーツ施設の感染対策を十分に測り、開催方法を工夫して、施設の利用促進と共に、市民または道民の健康・体力づくりに成果をあげるため。今後も継続できるよう計画を検討してもらいたい。

新型コロナウイルス対応による「まん延防止」「緊急事態宣言」時の少年団活動および学校開放の対応について、中学校の部活動が中止になった場合については、少年団活動および一般の学校解放の学校体育館利用は、感染防止の観点から「中止」とする対応を、学校側も協力はするが、生涯学習課が主となって対応するシステムを構築してほしい。

滝澤 敏哉

## 1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議については、定例会において各委員とも高い関心と問題意識のもと、伊達市の教育に関する様々な案件に関して検討・協議されていると考える。

また、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校訪問はできなかったが、教育委員会会議の開催に合わせて市内の教育施設を訪問して意見交換等を行い、子どもの学びの様子や学校課題等を知る機会を得ること、各学校の課題把握に努めることは、継続してほしい。加えて、様々な教育委員会の活動についての情報公開は、市民の理解を得る上でとても重要なことと考える。今後もより一層、学校との連携を密にし、各学校の要望や課題等を適切に把握して、教育活動の効果的な推進に尽力されることを期待する。

## 2 「第2次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

### (1) 学校教育

#### ①社会を生き抜く力を育む教育の推進

学力向上に向けた取組として「伊達市学力テスト」の実施は、大変有効であり、結果分析をもとに学力・学習改善プランを作成し、目標値を定めることで児童生徒の学力向上や教職員の資質向上にも役立つと考えられることから、各学校とも学習指導の工夫・改善を図っていただきたい。今後も、教職員の授業に対する自己評価と児童生徒や保護者による授業評価を比較分析し学習指導の工夫・改善を期待したい。

特別支援教育については、一人一人の教育的ニーズに対応するためにも「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用し、校種間における個別の教育支援計画等の円滑かつ効果的な引き継ぎを行うことは、とても重要であり、効果的な活用と教育的ニーズに対応した教育的支援を今後も継続していただきたい。

国際理解教育の推進については、ALTのサポートによる外国語活動の充実も図られており、小学校中学年の外国語活動、高学年の外国語科導入2年目ということもあり、外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成となり、今後の定着を図ることを期待したい。特に、大滝区で実施された「イングリッシュ・デイズ」においては、地域の教育資源を活用した開催を通して、参加した児童生徒たちが、異なる文化をもつ人々（今年度は、市内全ALT）との交流等を体験し、文化等に対する理解を深める目標に迫る事業の拡大・発展充実を期待したい。また、学習指導要領の改訂に伴い、積極的に外国人との交流や教職員の英語力の向上に向けた研修会や交流活動などが必須になるとと思われる。

情報教育の充実については、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段に慣れ親しみ、情報手段を適切に活用できるようにするための学習の充実を図っていただきたい。また、プログラミング教育の充実並びにGIGAスクール整備に努めるとともに、今後も学校だけでなく、情報モラル等についても家庭への理解を得られるよう環境を整備してもらいたい。

キャリア教育の推進については、児童生徒の発達段階に応じて将来の夢や目標をもつために、職場見学や職業体験学習など地域人材や施設を活用して学習している。コロナの影響で長期休業となり、年度当初から1学期における自己の在り方や生き方、将来について考えるキャリア・パスポートの取組が十分でなかったと考えられ達成度評価「C」となっているが、将来の夢や目標について考える機会を増やす等の取組を期待したい。発達段階に応じて児童生徒個々のキャリア発達を促す取組の継続をお願いしたい。

環境教育の充実については、教育活動全体を通じて各学校が取り組んでおり、伊達市の自然や施設・人材を生かした教育を今後も推進してもらいたい。

安全・防災教育の充実については、自然災害等身近な課題であり、防災訓練等を通して意識を高めることが大切と思われる。また、学校・家庭・地域の三者が一体となった取組の検討も重要と考える。

## ②豊かな心を育む教育の推進

道徳教育の充実について、各学校で授業改善に向けた校内研修を行っていることは良い実践であると考え。「考え、議論する道徳」の授業改善や評価に係る研修の充実が図られるとともに、人間としての在り方や生き方の自覚を深める中でより良く、今後も、自己有用感を高め、生きるための道徳性が養われるよう計画的な研修を各学校で推進してもらいたい。

生徒指導・教育相談の充実については、引き続き、教育相談や生徒指導全体計画の見直しを含めた校内体制の充実、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた校内研修等の継続を期待したい。また、教育相談においても、早期発見をする上では大切な取組であるので積極的に行ってほしい。児童生徒の置かれている状況や抱えている問題・悩みに応じて対応できるスクール・カウンセラーやスクール・ソーシャルワーカーの配置を継続してほしい。

## ③健やかな体を育む教育の推進

「体力向上プラン」に基づいた取組の工夫・改善については、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染状況や学校現場の負担軽減等を踏まえ、「全国学力・運動能力、運動習慣等調査」が中止となり評価できなかったことを受け、児童生徒の実態に応じた「体力向上プラン」を作成し、体力・運動能力の向上に向け、各学校で伊達市体力テストを実施し、児童生徒の体力・運動能力の検証を図ることにより、学

習指導の工夫・改善を図ってもらいたい。それを基に体力向上を図ることは、とても良いことであり、日常的に運動する習慣を身につけるように取り組んでもらいたい。

食育・健康教育の推進については、栄養教諭による栄養指導や食育の大切さに関する啓発活動等、健康に関する教育を推進してきたことがわかる。食育センターも稼働し、新たな地場産の食材利用を検討し、実施に向けた試作を重ねる等の調整を図っていただいていることがわかった。学校給食における地元食材利用率を上げるために、道立高校学校給食モデル事業を含めた検討をお願いし、なお一層児童生徒の健康のために給食提供を充実されることを期待している。

#### ④地域と共にある学校づくりの推進

地域総がかりの教育の推進については、保護者や地域の方が、学校における様々な活動に参加していただく等広がっており、学校運営協議会が学校運営に参画し、より充実した地域総がかりの教育を推進されるようお願いしたい。

また、異校種間連携・接続の推進について、児童・生徒交流の推進や、異校種間の教育課程の接続や指導方法に係わる情報交換や、教育活動上での連携の実施を継続するとともに、小学校から高等学校までの系統立てたふるさと創生教育「だて学」について、伊達の子どもたちの人材育成に大変重要と考えるので、学習方法、内容の充実を図り、継続していただきたい。

#### ⑤信頼される教育環境の整備

望ましい教育環境を整備するために老朽化している施設・設備の改修工事や補修を進めることは、大変重要なことである。学校施設の老朽化・機能低下が進行していることから、今後を見据えた計画的な改修、修繕を行っていただきたい。

校外安全対策の充実については、策定時と変わらない割合となっているため、警察など地域の関係機関・団体等と連携し推進してほしい。

学校再編等の推進では、統合予定校における児童の不安や負担解消を図るとともに、保護者や地域の意見交換や協議を行い、理解が得られるよう慎重に進めていただきたい。

また、高等学校教育等との連携・支援についても、令和3年度に北海道伊達開来高等学校が開校したことから、子どもたちや地域にとって魅力ある高等学校を構築するため、連携・支援を行っていき、ふるさと創生教育「だて学」を推進していただきたい。さらに、タブレットの整備及びオンライン学習に必要な環境を整えるための支援を行うことにより、引き続き子どもたちや地域にとって魅力ある高等学校に対する支援・連携を行っていただきたい。



## (2) 社会教育

### ①ふるさと意識を育て地域づくりに参加する青少年教育の推進

こころとふるさと意識を育む体験活動の推進については、各種事業等で子どもや異世代とふれあう企画が多く良いことだと思う。また、青少年教育事業においても175名の参加者で依然として関心が高い結果を残されている。実施できる内容を検討したものの大半が中止となり、参加者減となってしまうが、コロナ禍の現状に合わせた手法と回数の実施に向け、今後とも様々なアイデアを出し楽しい企画を展開してもらいたい。

青少年団体活動の推進では、各種リーダー養成講習会への派遣されたことは今後の活動を推進する上で大切なことであり、地域づくりに必要な人材の育成に繋がる中高生の一般公募の検討と団員の増の取組を進め、今後も積極的に派遣を行い地域に還元できるように育成してほしい。

### ②共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進

生涯にわたる充実した学習機会の提供については、市民の多様な学習ニーズに対しての宅配講座や市民講座など充実していると思われる。実績は、81名の参加となり、予定していた講座数の回数が下回る結果となったが、今後もより魅力的な講座の開設や人材発掘など企画してもらいたい。

高齢者が、健やかで豊かに学ぶ機会の創出については、長生大学での講義や実技講座の実施等、生きがいをもって参加している高齢者の方も多と思う。また、学生ボランティア活動の積極的推進は、今後も続けていただきたい。学生数確保のため、長生大学の存在を広報誌等で積極的にPRしていただきたい。

家庭・地域の教育力の向上においては、地域住民と連携を期待する事業について、周知・連携方法の検討が必要と考える。学習指導員や安全管理員の人材確保から取り組み、関係機関と連携し、家庭教育に関する啓発運動の実施に向けて周知していただきたい。

図書館機能の充実については、図書館運営協力会の実施でより利用しやすい機能になることは良いことである。また、ボランティア団体による読み聞かせ、イベントなどの開催等、本が好きになる環境がつけられること、そして、司書おすすめコーナーを拡充し、前年度から実施してきた小学生から高校生までを対象とし、学校と連携した「みんなのオススメ本POPコンテスト」を継続し実施したこと等は、読書普及の促進を図るため今後とも継続してもらいたい。

## (3) 歴史・文化芸術

### ①特色ある地域文化の推進

文化芸術活動の充実については、芸術公演鑑賞者数が2,327名と昨年度より減少し、事業の大半が中止となり、参加者数が大きく減とはなったが、市民のニーズに

応じた芸術鑑賞の機会の充実に努めていただきたい。また、小中学生を対象とした巡回小劇場は、本物の芸術に触れる機会として今後も大切にしていきたい。そして、市民向けの定期的な芸術鑑賞会（舞台・音楽など）は、財政的な負担はあるが、市民が楽しみしているものであり可能な限り継続してほしい。

#### ②歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

歴史文化資源の活用として、だて歴史文化ミュージアムを活用し、市民や観光客に価値を理解してもらうなど文化資源の保護に繋げるとともに、北黄金貝塚を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界遺産に登録されたことを受け、人類共通の宝である北黄金貝塚を地域の文化資源の保護と活用を将来の世代に引き継いでもらいたい。

文化財の展示保管環境の整備については、日常的な点検や計画的な維持管理の継続実施が必要と考える。

#### (4) スポーツ振興

##### ①豊かな心身を育むスポーツの振興

スポーツ活動の促進については、市民がスポーツに親しむ機会を提供することは、健康づくりや生きがいをもたらすことから、伊達市体育協会等の関係団体と引き続き連携した事業展開を行うとともに、各種スポーツ団体における指導者育成に関しても、研修会等に積極的に取り組み、指導技術を高めていただきたい。

スポーツ施設の整備、充実については、総合体育館・プール・パークゴルフ場・野球場と利用者も多い。利用促進の意味でも指定管理者との更なる連携強化等、各施設の内容を考慮しながら有効活用を推進できるよう、より一層の取組をお願いしたい。

小林 浩 路

## 1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議については、定例会において、各委員の高い関心と問題意識のもと、教育に関する様々な案件について検討し、議決されていることと考える。

定例会の開催予定や傍聴の案内、会議録等については、ホームページに掲載するなどして透明性を示し、また、パブリックコメントを実施し、広く市民の意見を求めている。

伊達市における教育機関（小中高等学校、幼稚園・保育園等）、並びに社会教育施設、関連施設が、新型コロナウイルス感染症拡大により、臨時休校や学校行事の中止・変更等、また、施設の臨時休館や入館制限等が行われるなど、教育関係者はじめ一般市民、保護者、子どもたちが様々な影響を受けた。そのため、今後の課題等について検証し、今後の対応に生かしていく必要があると考える。

## 2 「第2次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

### (1) 学校教育

#### ①社会を生き抜く力を育む教育の推進

確かな学力の育成については、小学校及び義務教育学校の前期課程の国語科で取組評価が概ね順調となっているが、達成度評価では全体的にやや遅れている状態であり、「学力・学習改善プラン」の作成とともに、一人ひとりの基礎基本の確実な定着を目指した指導方法の工夫・改善が期待される。

特別支援教育の充実については、すべての学校において、通級指導教室及び特別支援学級に在籍する児童生徒の個別の教育支援計画や個別の指導計画が作成され、就学先や進学先等への引継ぎに活用されており、今後とも、教育的ニーズに対応した教育的支援の継続が期待される。

国際理解教育の推進については、伊達市学力テストにおける外国語の平均点が標準スコアの全国平均程度となっており、これまで同様、ALTの効果的な活用とともに、児童生徒の興味・関心を高める指導方法の工夫・改善、及び子どもたちが外国の文化や習慣に慣れ親しむことができるよう期待する。

情報教育の充実については、児童生徒一人ひとりに情報活用の実践力や情報モラルの指導、情報機器活用のマナーなど、ネットトラブルの未然防止に向けた指導の継続が重要である。また、GIGAスクール構想に基づき、児童生徒一人に1台のPC端末を提供するなどの整備を行うとともに、発達段階に応じたプログラミング教育の実施が期待される。

キャリア教育の充実については、児童生徒の発達段階に応じたキャリア形成の方

向性と関連づけながら、将来の社会的・職業的自立のために主体的に学習活動に取り組めるよう、キャリア教育全体計画に基づいた実践化と、伊達地区ネットワーク会議への参加により、情報収集や意見交換を図り、職場見学や職業体験を通して児童生徒のキャリアプランニング能力の育成が図られるよう地域との連携・協力が重要と考える。

環境教育の充実については、すべての学校において、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等、学校の教育活動全体を通して環境教育に関する学習が継続して実践されており、高い評価となっている。地域の将来を見通し、自らの課題としてとらえ、課題解決に向けて自分たちができることを考えて行動できる子どもの育成が期待される。

安全・防災教育の充実については、従来からの自然災害や火災、交通事故などの防災訓練的な対策を学校教育の中でとらえることは、大変、重要である。更に、健康学習や保健衛生的な観点や関連機関との関わり方など、地域の一員としての観点から、直面している新型コロナウイルス感染症への対応について、児童生徒と教師が一緒になって考える場面設定が必要と考える。

## ②豊かな心を育む教育の推進

道徳教育の充実については、「考える・議論する道徳」の授業改善や、指導に生きる評価のあり方に係る校内研修の充実を図るとともに、自己を見つめ、人間としてのあり方や生き方の自覚を深め、道徳性が養われるよう道徳教育全体の工夫・改善が期待される。

生徒指導・教育相談の充実については、教員だけでは解決できないことも多くなってきており、児童生徒や保護者の相談に対し、教員のほか、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を継続し、いじめや不登校、ネットトラブル、ネグレクト、更には、ヤングケアラーの調査を行って、様々な児童生徒の置かれている状況の把握や、保護者が抱えている複雑な悩みに即して、学校と家庭、市教委、市の関係部署、及び警察、児童相談所、医療機関などと連携した対応が必要と考える。

## ③健やかな体を育む教育の推進

体力・運動能力の向上については、新型コロナウイルス感染症の影響により「全国学力・運動能力、運動習慣等調査」が未実施となったが、今後とも、すべての学校において伊達市体力テストを実施し、児童生徒の実態に応じた「体力向上プラン」を作成し、個々の体力・運動能力の向上を目的とした指導の工夫・改善に活用されることが期待される。

食育・健康教育の推進については、安心安全な給食の提供と栄養バランスのとれた給食内容の充実を図るため、新たな地場産食材を活用した献立の見直しが期待さ

れる。また、栄養教諭の派遣事業の継続的な実施によって食育指導や給食指導の充実が期待される。

がん教育や薬物乱用防止教室、性に関する指導の実施については、小学校及び義務教育学校の前期課程で目標値を下回っているものの、すべての学校における教育計画に基づき、保健体育や学級活動、及び外部講師を招聘した講座を実施するなど、取組の充実が期待される。

#### ④地域と共にある学校づくりの推進

地域総がかりの教育の推進については、すべての学校で、保護者や地域住民が各校の学校運営協議会や様々な活動に参加して、地域とともにある学校づくりが進められている。

ふるさと創生教育の推進については、取組評価が順調で、達成度評価も達成・完了と高い評価を得ている。今後、地域の人材や施設、副読本等の活用や、小学校から中学校、市内高等学校も含め、すべての学校でふるさと創生教育「だて学」が、発達段階に応じた学習プログラムによって実施されることが期待される。

異校種間連携・接続の推進については、小学校体験入学や幼稚園・保育所交流、中学校区を基本とした児童生徒の交流、市内高等学校と小中学校との教育課程の接続を図るなど、高い評価を得ている。また、児童生徒に関する引継ぎや教職員の指導方法に関わる研修会、情報交流等も計画的に実施されており、今後とも、効果的な接続が期待される。

幼児教育の充実については、新型コロナウイルス感染症の影響により計画が未実施だったが、就学前の幼児が円滑に小学校や義務教育学校の前期課程の生活がスムーズに送れるように、市内の幼稚園、認定こども園、保育所の年長児が交流する「アプローチカリキュラム」の実施と、小学校や義務教育学校の前期課程入学後も生活にスムーズに適応していけるように、生活科を中心に学科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定や、指導方法の工夫や指導計画を作成して実施する「スタートカリキュラム」など、効果的な交流学习の実施継続が期待される。

教職員の資質・能力の向上については、新型コロナウイルス感染症の影響で、毎年、研究主題に基づいて実施されている『伊達市教育実践交流・研修会』が中止となったが、『教職員の生命線は研修』であり、家庭や地域から信頼され、安心して子どもたちを学校に託すことができるよう、教職員相互の実践交流や研修会参加によって培われる資質・能力の向上が大いに期待される。

#### ⑤信頼される教育環境の整備

学校施設・設備の充実については、伊達市学校施設長寿命化計画に基づいた増改築工事の実施と、学校の統廃合等、施設の将来的な動向や財源等を踏まえ、学校施設が計画的に整備されていくよう期待される。

校外安全対策の充実については、警察など関係機関と連携した交通安全教室や防犯教室を実施し、児童生徒の交通安全意識や防犯意識の向上を図っている。また、登下校安全対策推進会議等により、校区内の危険個所対策の検討と通学路の安全確保の徹底が期待される。

学校再編等の推進については、児童生徒が望ましい学校規模の中で学び、資質や能力を更に伸ばしていけるよう、子どもたちの教育環境をより良いものにするため、伊達市立学校適正規模配置（案）に基づき、保護者や地域への十分な説明と調整を行っていくことが大切と考える。

高等学校教育等との連携・支援については、子どもたちや地域にとって魅力ある高等学校として構築されるよう、今後とも支援していただきたい。

## (2) 社会教育

### ①ふるさと意識を育て地域づくりに参加する青少年教育の推進

こころとふるさと意識を育む体験活動の推進については、子ども同士や親子、世代間交流として異世代等がふれあう貴重な機会となり、青少年の健やかな成長と社会性を養う上で大変重要である。新型コロナウイルス感染症の影響で参加者が減少したものの、今後とも、積極的な参加の奨励と参加者増を期待する。また、青少年の非行防止等のため、青少年指導センター指導員と実施している巡回指導や街頭指導のほか、夏季キャンプ場や祭典時の特別巡回、広域列車添乗補導などは、大変、重要なことと考える。

交流活動を通じた地域づくりに参画する人材の育成については、姉妹・歴史友好都市シニアリーダー研修交流事業は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、少子化に伴う青少年団体の減少が懸念される中、伊達市におけるリーダー養成研修や、伊達市成人式では、青年団体の協力で新成人実行委員会を組織し、自ら企画運営するなど、これからの地域づくりに必要な人材の育成事業として期待される。

### ②共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進

生涯にわたる充実した学習機会の提供については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止や規模の縮小が余儀なくされたが、今後は、多数の参加者を見込んだ講座や講演会の企画だけでなく、市民の教育的ニーズに対応した多種多様な講座内容や、講座の時間帯、曜日、シリーズ等を検討し、市民が参加しやすい講座の開設が期待される。

高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出については、高齢者の就労が増加傾向にあり、長生大学の入学者数の減少や、転居、疾病、死亡などによる在学生の減少、更には、新型コロナウイルス感染症の影響で学習日と学習外活動がなかったため、学生数が減少していることから、学生数の確保のため広報紙等による積極的なPR

活動が必要と考える。また、今後、コミュニティ・スクールや放課後子ども教室への高齢者の参加が期待されることから、活動内容や指導内容等の情報提供が必要と考える。

家庭・地域の教育力の向上については、地域住民がコミュニティ・スクールや放課後子ども教室等と関わり合いながら子どもを育てる地域基盤の強化を目指しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で全て中止となった。

図書館機能の充実については、市民の要望・関心に応えるため、館内の飾りつけや本の表紙を見せる配架などの工夫、「みんなのオススメ本POPコンテスト」を実施して、読書の普及促進に努めている。新型コロナウイルス感染症のため、臨時休館や滞在時間の制限で利用者が激減したが、市民の図書貸出要望に対し、パソコン予約や電話予約による図書の窓口貸出などの対応も可能と考える。また、懸案事項である伊達市立図書館の新築、あるいは、増改築の早期着工が期待される。

### (3) 歴史・文化芸術

#### ①特色ある地域文化の推進

文化芸術活動の振興については、市民向け舞台鑑賞機会の提供として、伊達市・室蘭市・登別市3市で行っている西いぶり定住自立圏文化事業やだて歴史文化ミュージアムを活用した各種展覧会の実施、また、市内全児童生徒に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供する巡回小劇場事業を行っている。新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、今後とも、引き続き、財政面の支援が必要と考える。

#### ②歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

歴史文化資源の活用については、新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休館や制限付き開館となったものの、だて歴史文化ミュージアムを活用した特別展や常設展など、展示方法の工夫や入館方法（人数制限）など受け入れ対応により、来館者の満足感や充実感が得られるものと考ええる。

文化財の保護と適切な展示保管環境の維持については、世界文化遺産に登録された北海道・北東北縄文遺跡群の一つである史跡北黄金貝塚公園の景観保全に努めるとともに、有珠モシリ遺跡については、測量・発掘調査計画を策定し、国史跡指定の働きかけが必要である。また、史跡や展示施設の説明ガイドやヤングボランティアの組織化、学芸員等の発掘・養成・確保が必要と考える。

### (4) スポーツ振興

#### ①豊かな心身を育むスポーツの振興

スポーツ活動の促進については、年齢や経験に関わらず、健康や生きがいをづくりに向けて、誰もが気軽にスポーツに取り組めるよう、各種目の初心者教室や地域間・世代間交流に向けたファミリースポーツ大会の開催、更には、ニュースポーツの普

及促進が図られている。今後、青少年期の適切なスポーツ指導や個々の心身の発達に応じた適切な指導が行えるようスポーツ指導者の養成が必要と考える。

スポーツ施設の整備・充実については、新型コロナウイルス禍においても、積極的に施設の利用が図られ、市民の健康・体力づくりに寄与している。また、空き時間帯にスポーツ以外の団体利用や、市民のニーズに対応した有効活用が図られている。今後、指定管理者等と連携して、施設の老朽化への対応や、修繕、備品等の補充など、更新計画の作成準備に取り組む必要が考えられる。